

世田谷区福祉人材育成・研修センター
福祉のしごと 魅力発信

2023年3月1日
オンライン配信

「誰もが安心して暮らし続けられる世田谷を目指して」
～世田谷区の福祉の課題と事業所の先駆的な取り組みについて～

世田谷区の福祉の課題

国際医療福祉大学大学院教授
医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
中村秀一

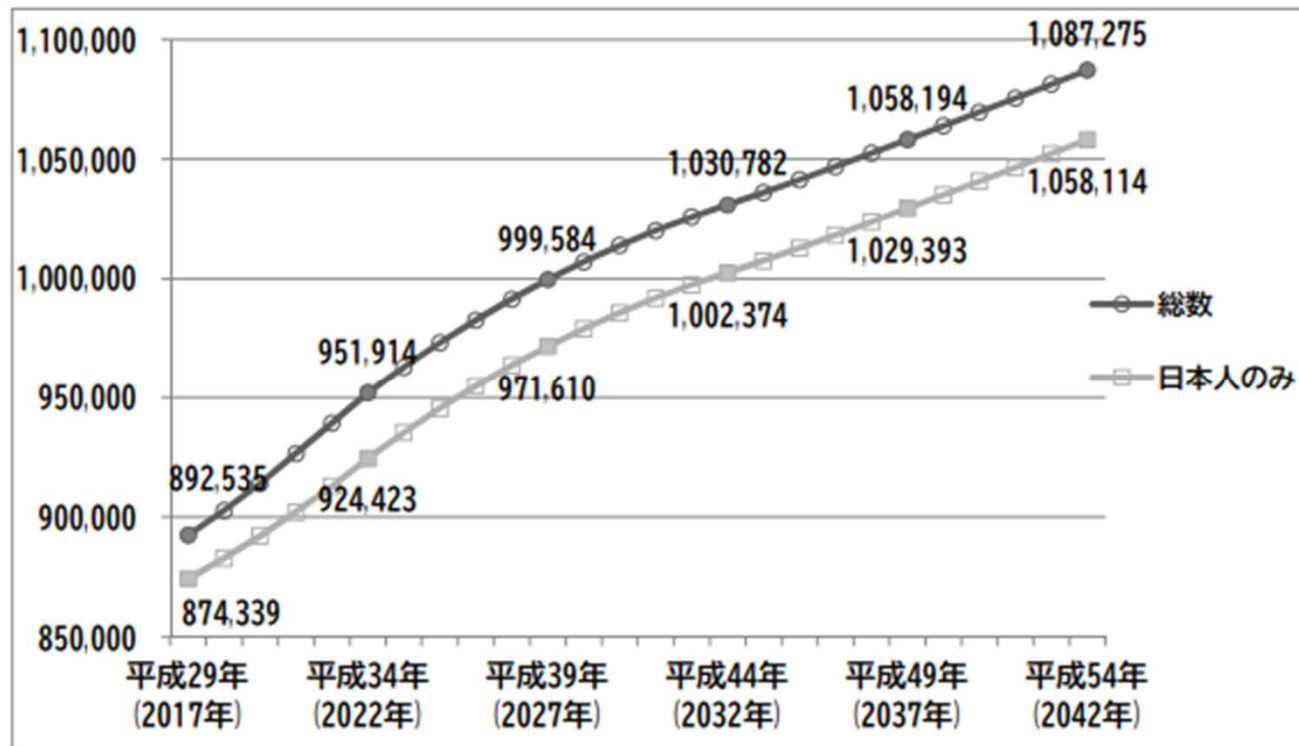
世田谷区の福祉の課題

- I 環境の変化～ポスト・コロナ社会～
- II 高齢化について
- III 福祉の課題
- IV 審議会での議論

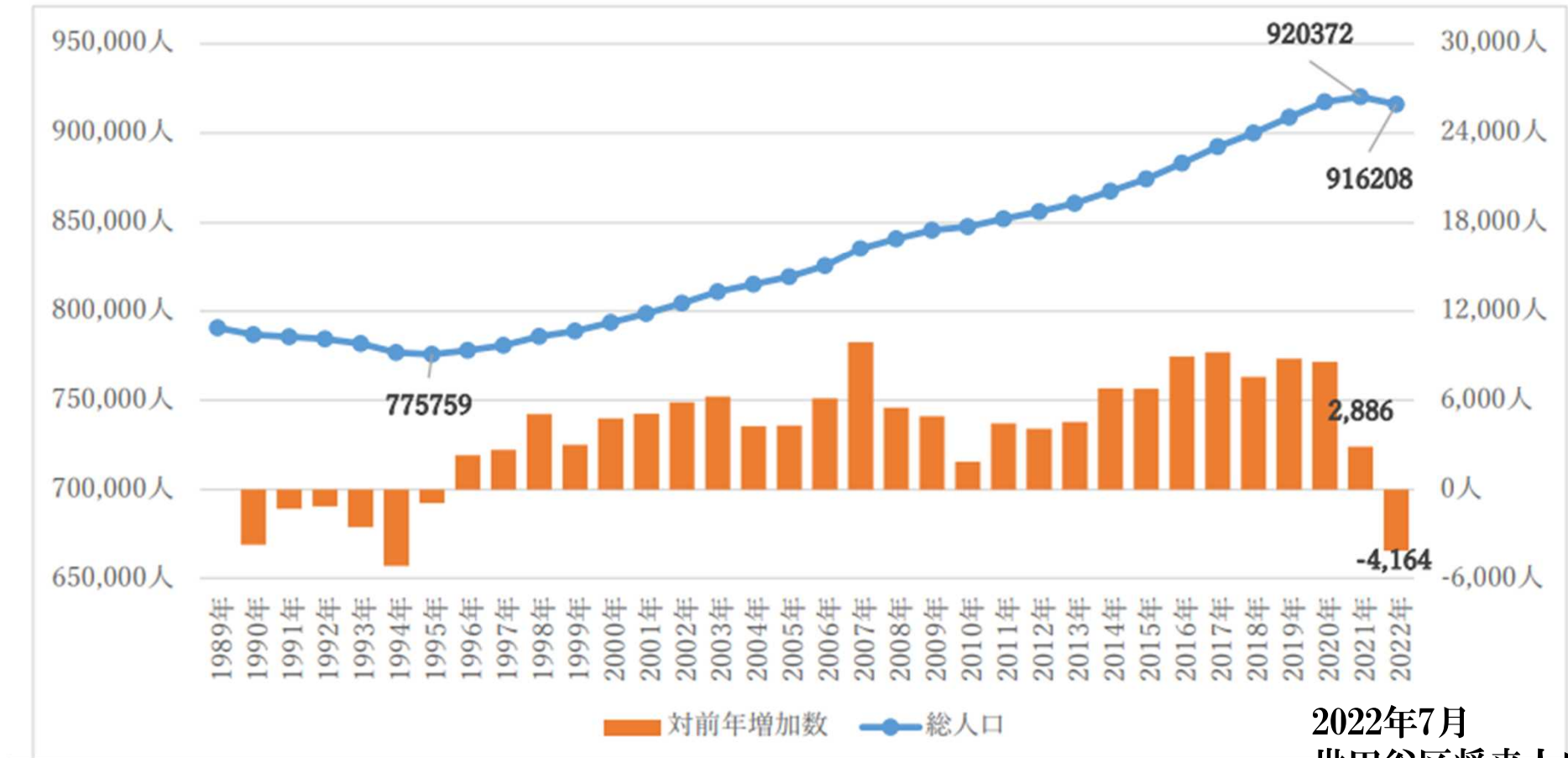
I 環境の変化～ポスト・コロナ社会～

コロナ前の将来人口推計 (2017年7月)

○2017年 89.2万人 →2042年 108.7万人 (約19万人増)



人口が減少した2022年

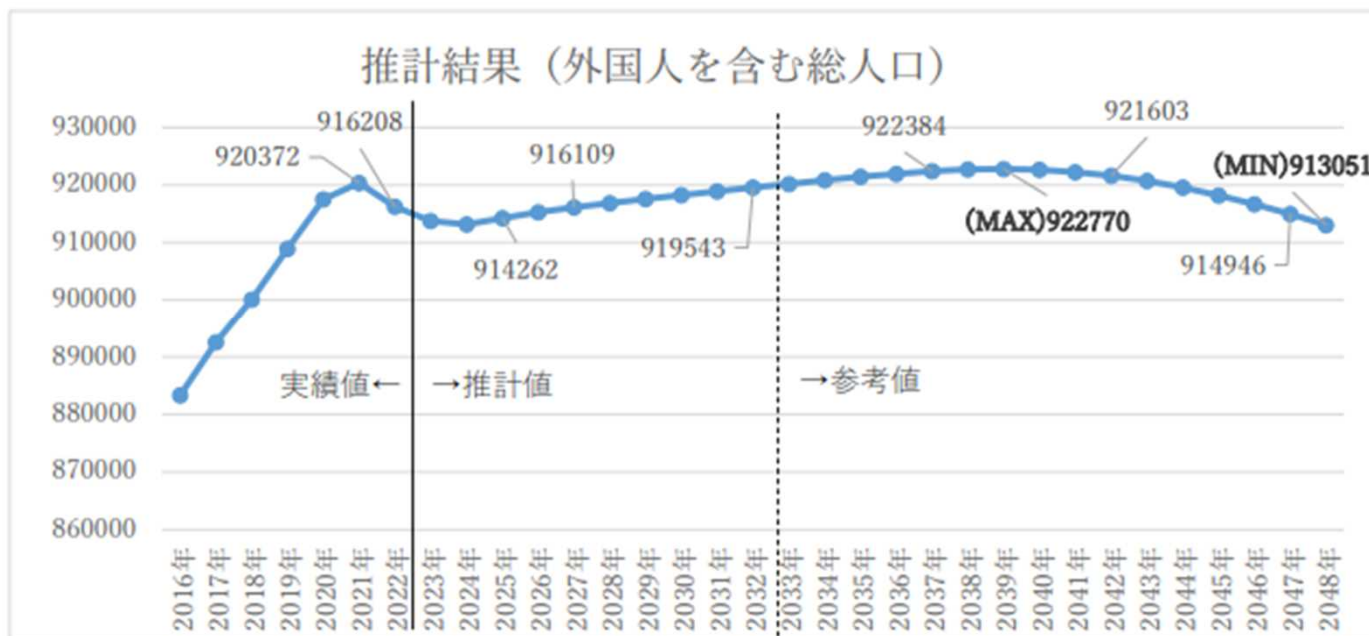


2022年7月
世田谷区将来人口推計

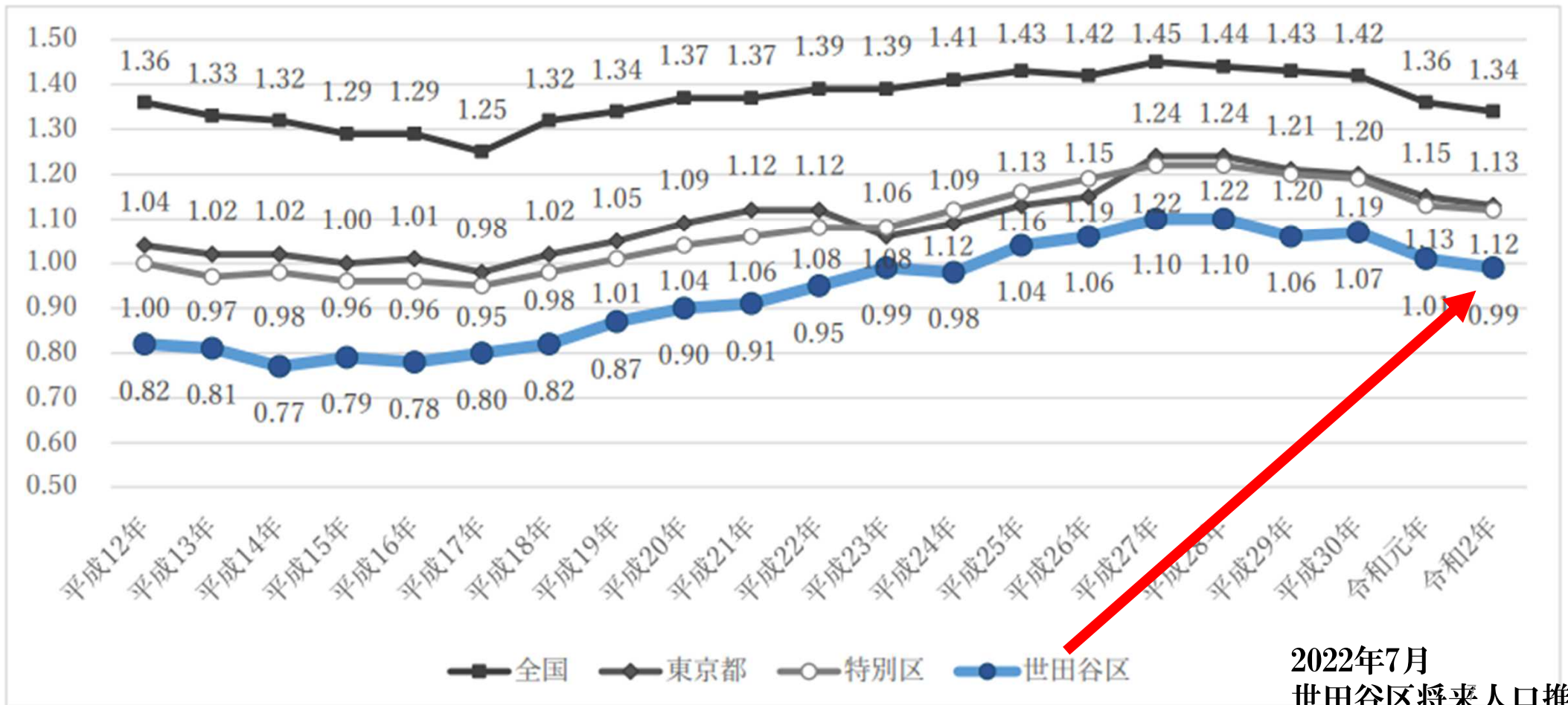
世田谷区の人口増加は止まった (2022年7月推計)

○2022年 91.6万人 → 2048年 91.4万人

○人口のピーク 2039年 92.2万人

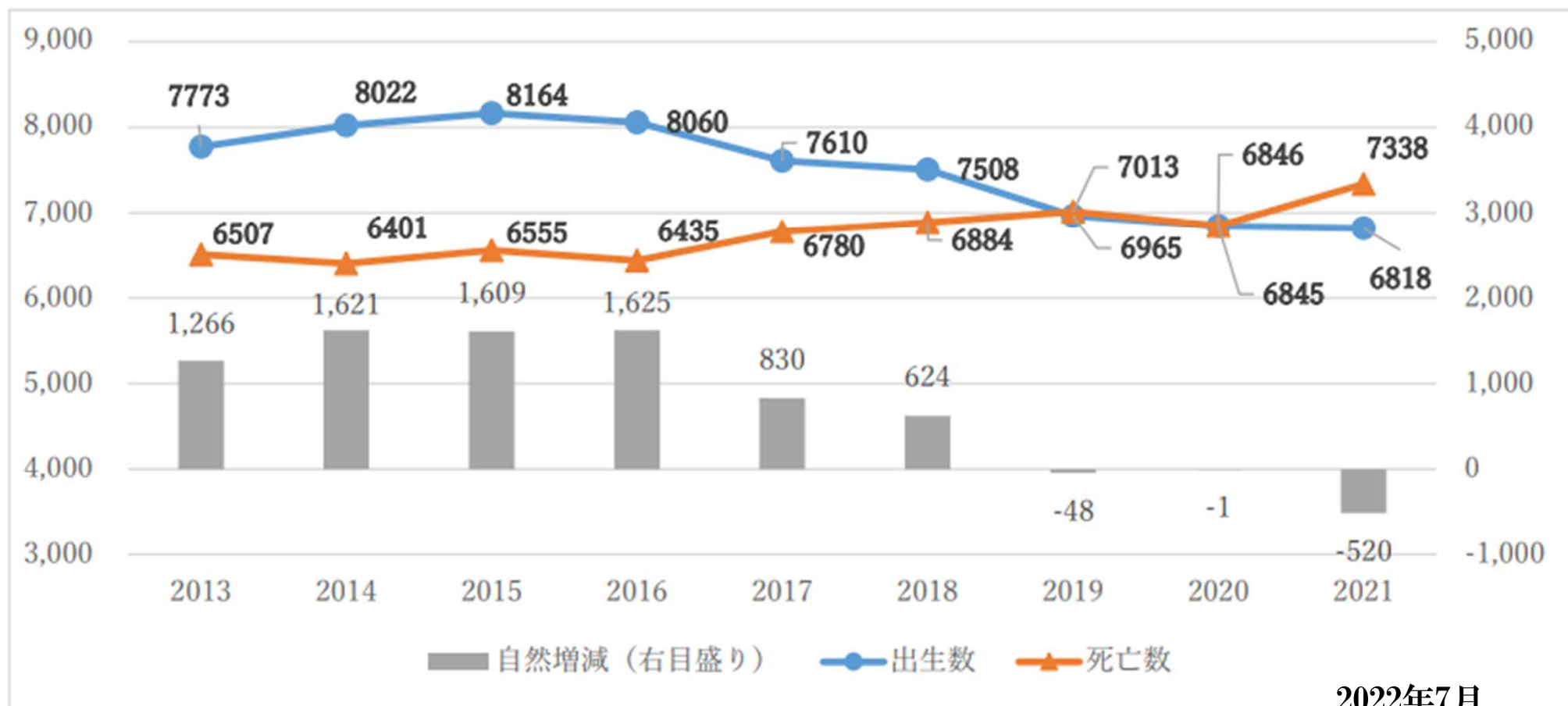


低い世田谷区の合計出生率



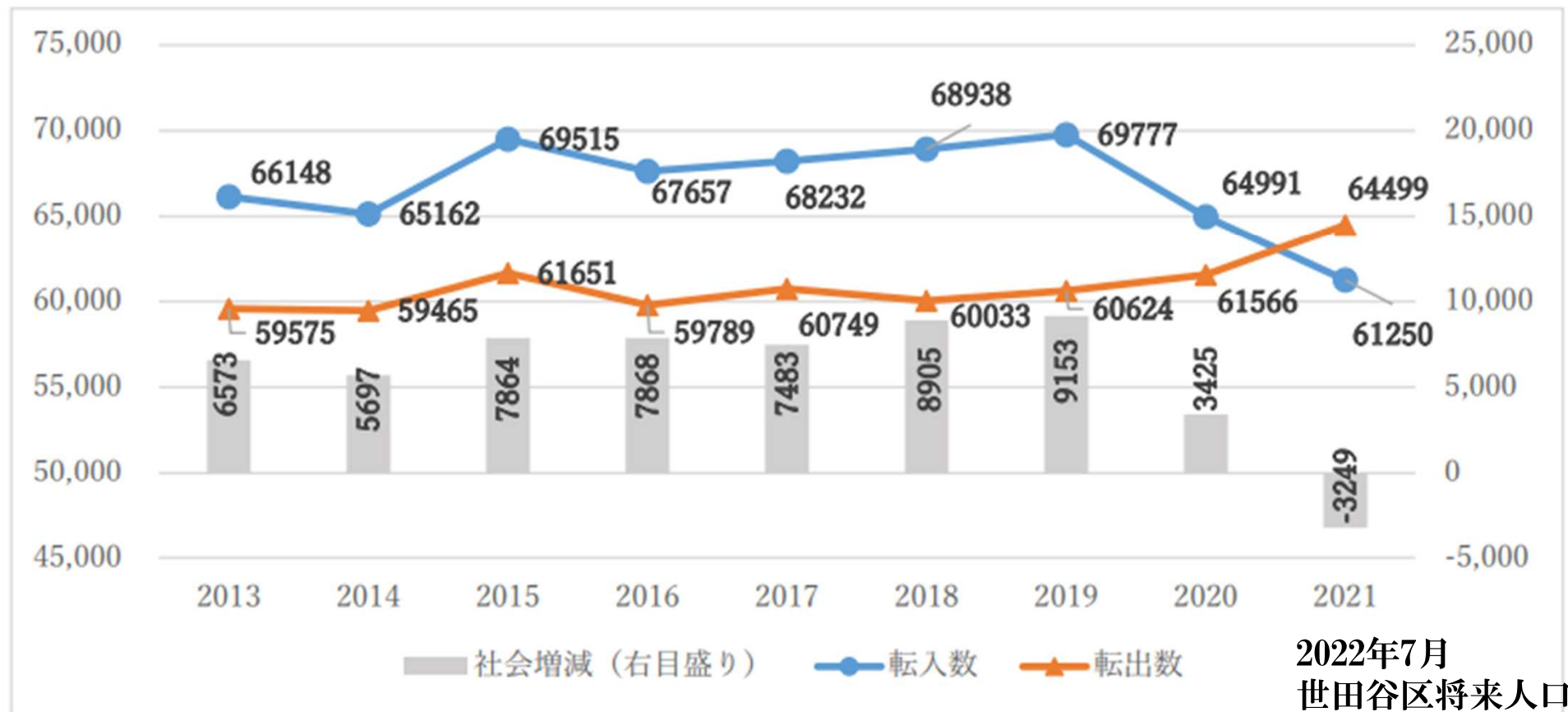
2022年7月
世田谷区将来人口推計

2019年から死亡数が出生数を上回る

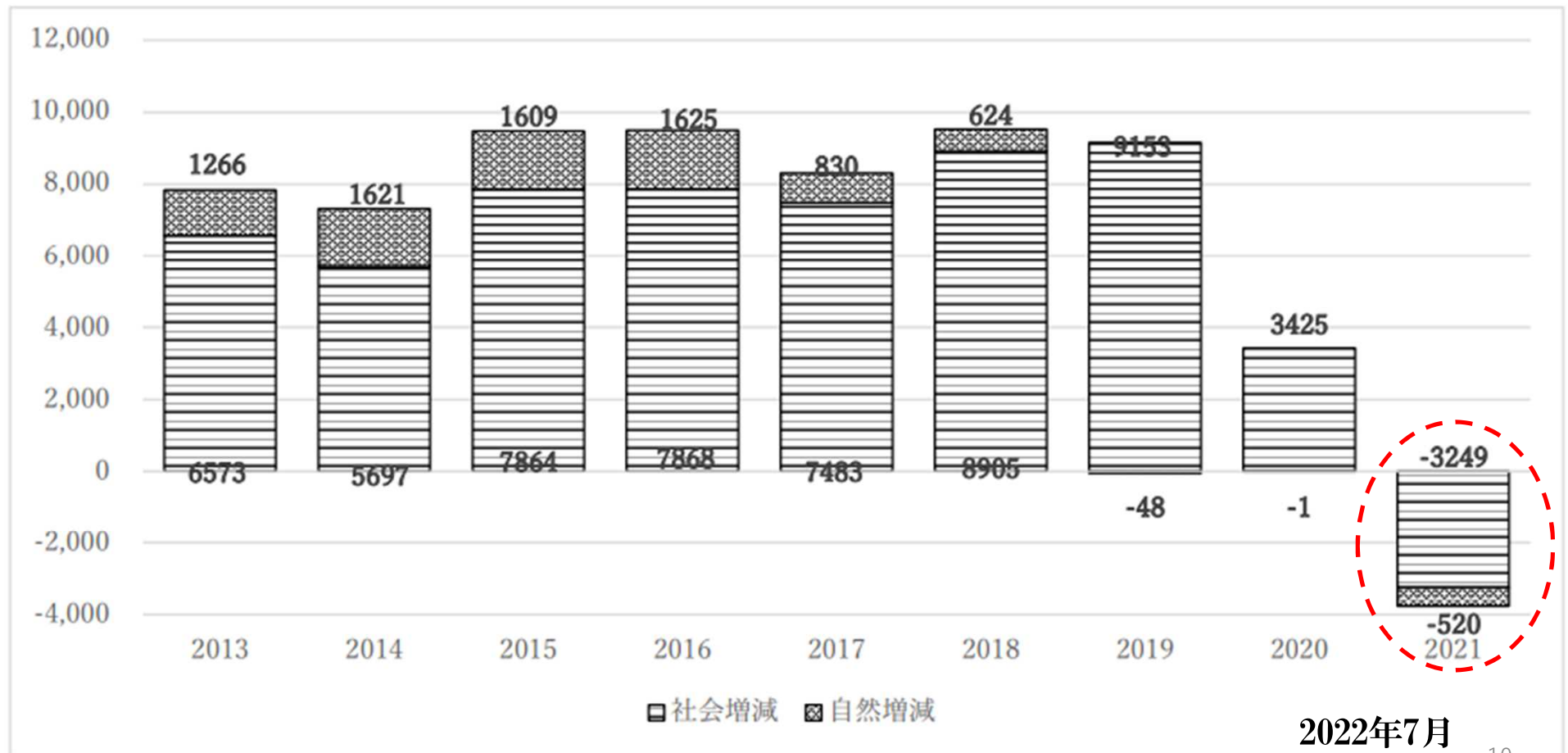


2022年7月
世田谷区将来人口推計

コロナで「転出」が「転入」を上回った

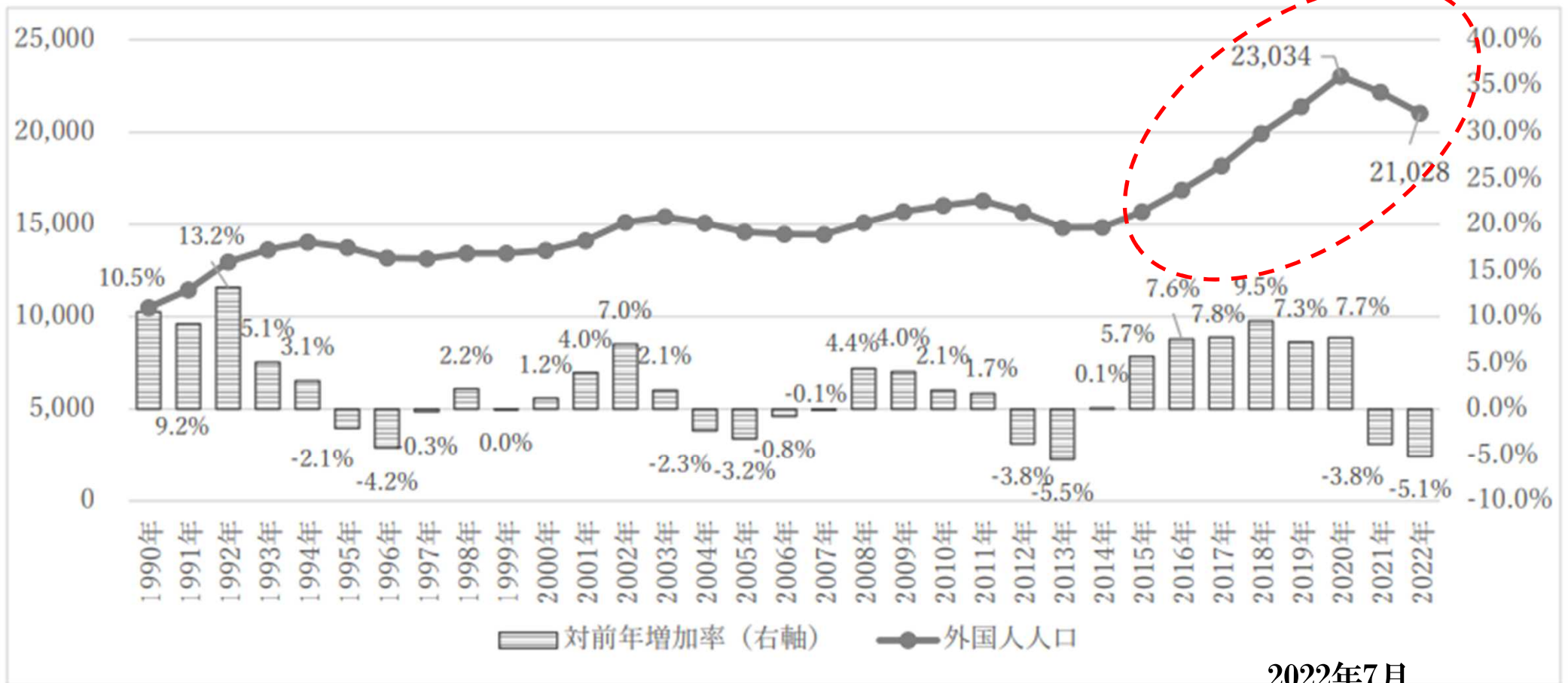


結果、2021年は人口減となった



2022年7月
世田谷区将来人口推計

2015年以降、外国人人口は増加傾向



2022年7月
世田谷区将来人口推計

Ⅱ 高齢化について

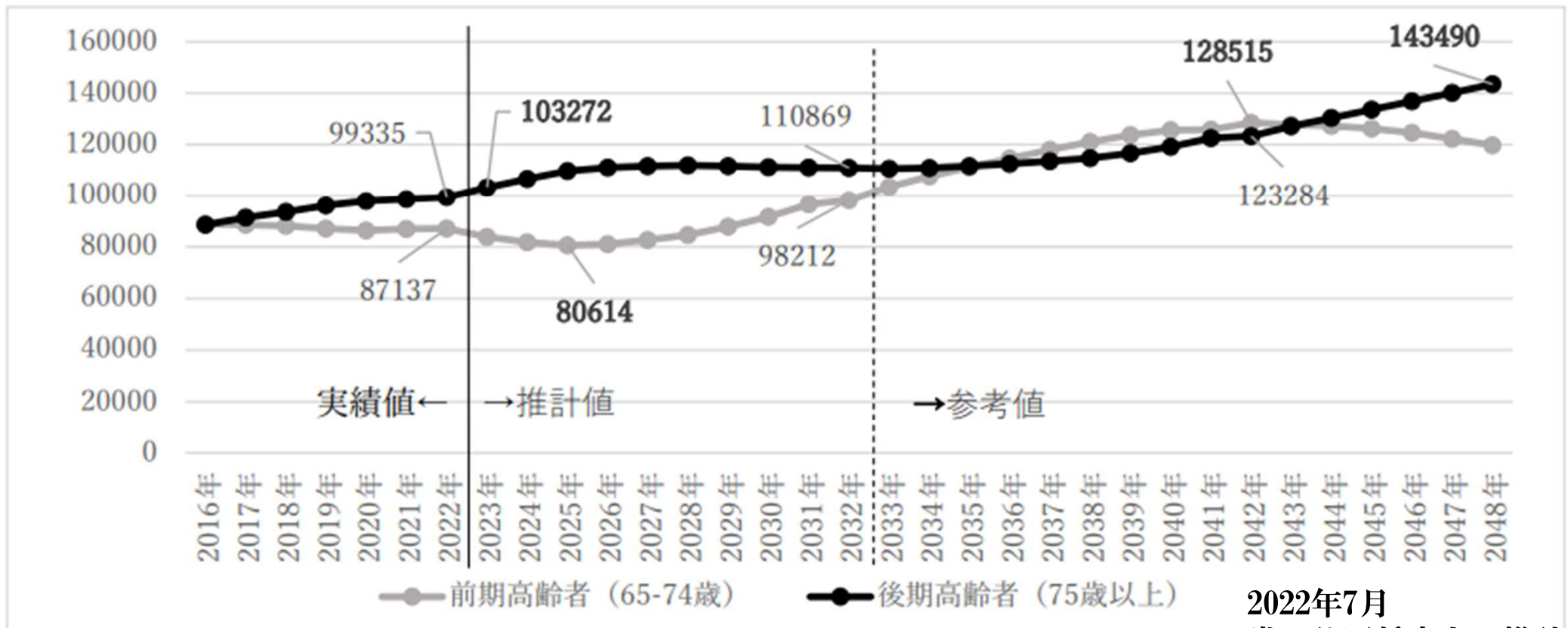
上昇する高齢化率

○2022年 20% → 2047年 28%

年齢3層別人口比率

	令和4年 (2022年)	令和9年 (2027年)	令和14年 (2032年)	令和19年 (2037年)	令和24年 (2042年)	令和29年 (2047年)
0-14歳	12%	11%	10%	10%	10%	10%
15-64歳	68%	68%	67%	65%	63%	62%
65歳以上	20%	21%	23%	25%	27%	28%

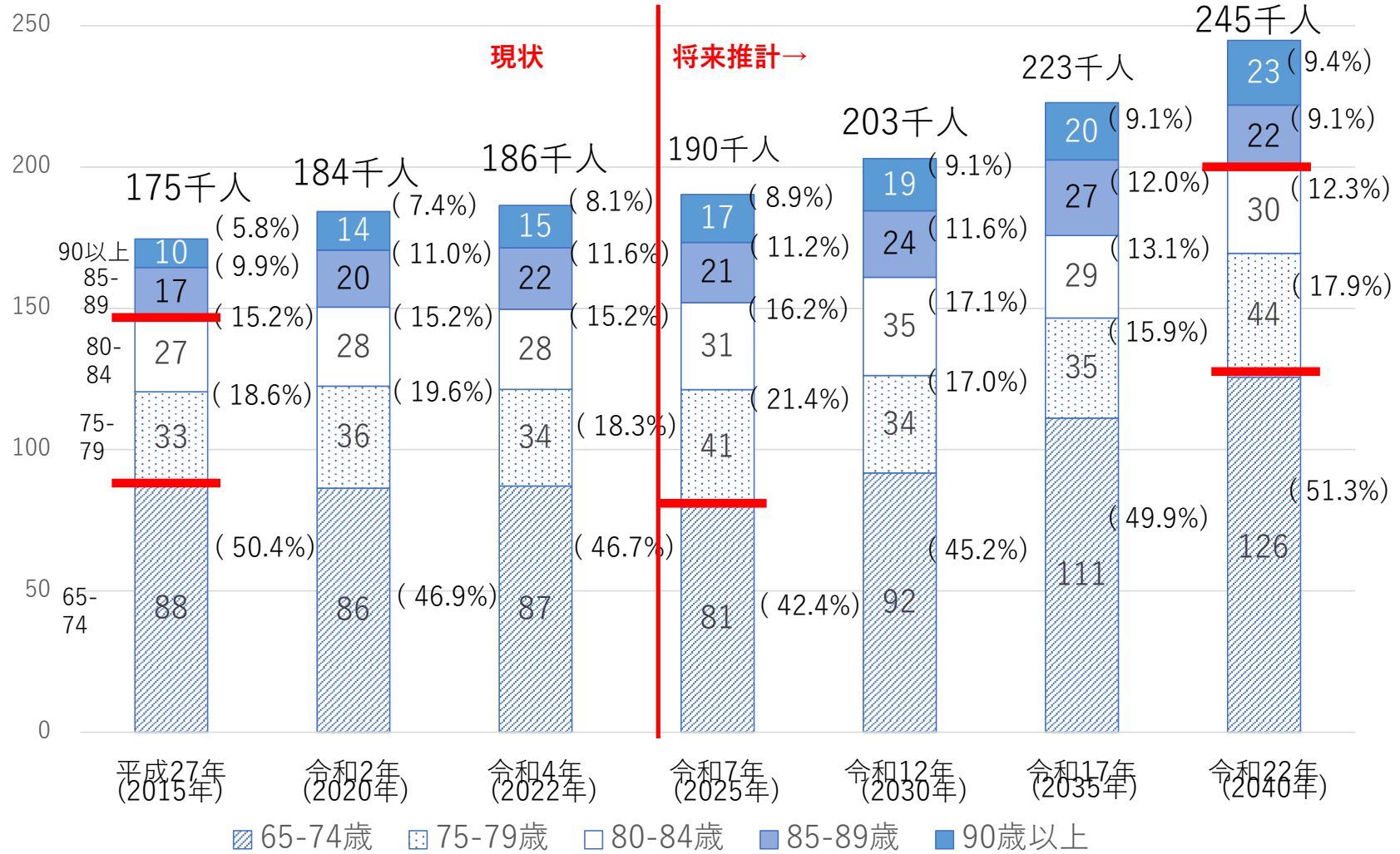
今後10年は、後期高齢者数 > 前期高齢者



2022年7月
世田谷区将来人口推計

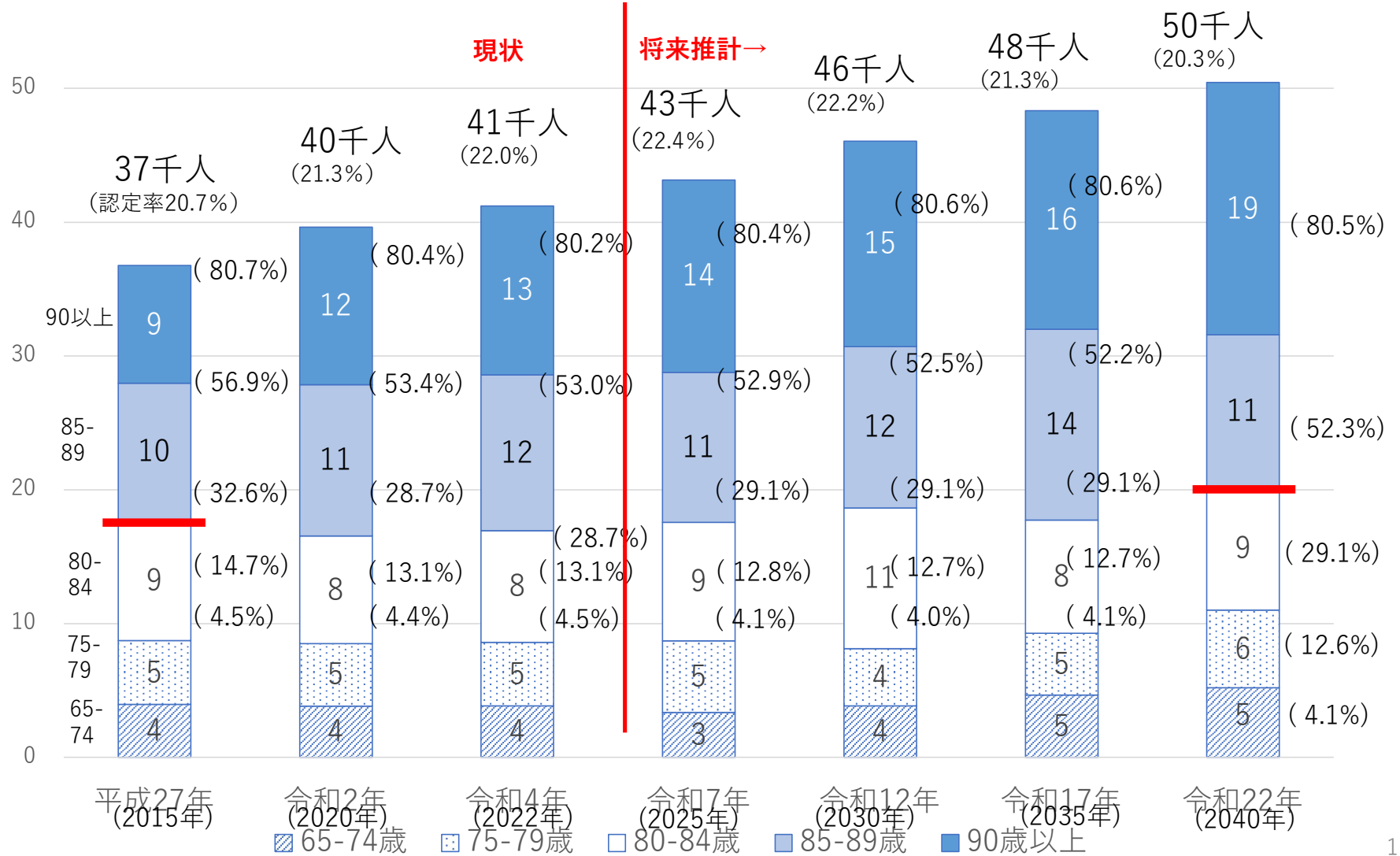
3 世田谷区の高齢者人口の現状と将来推計（各年1月1日） 3

※カッコ内は年齢階層ごとの構成率（単位：千人）

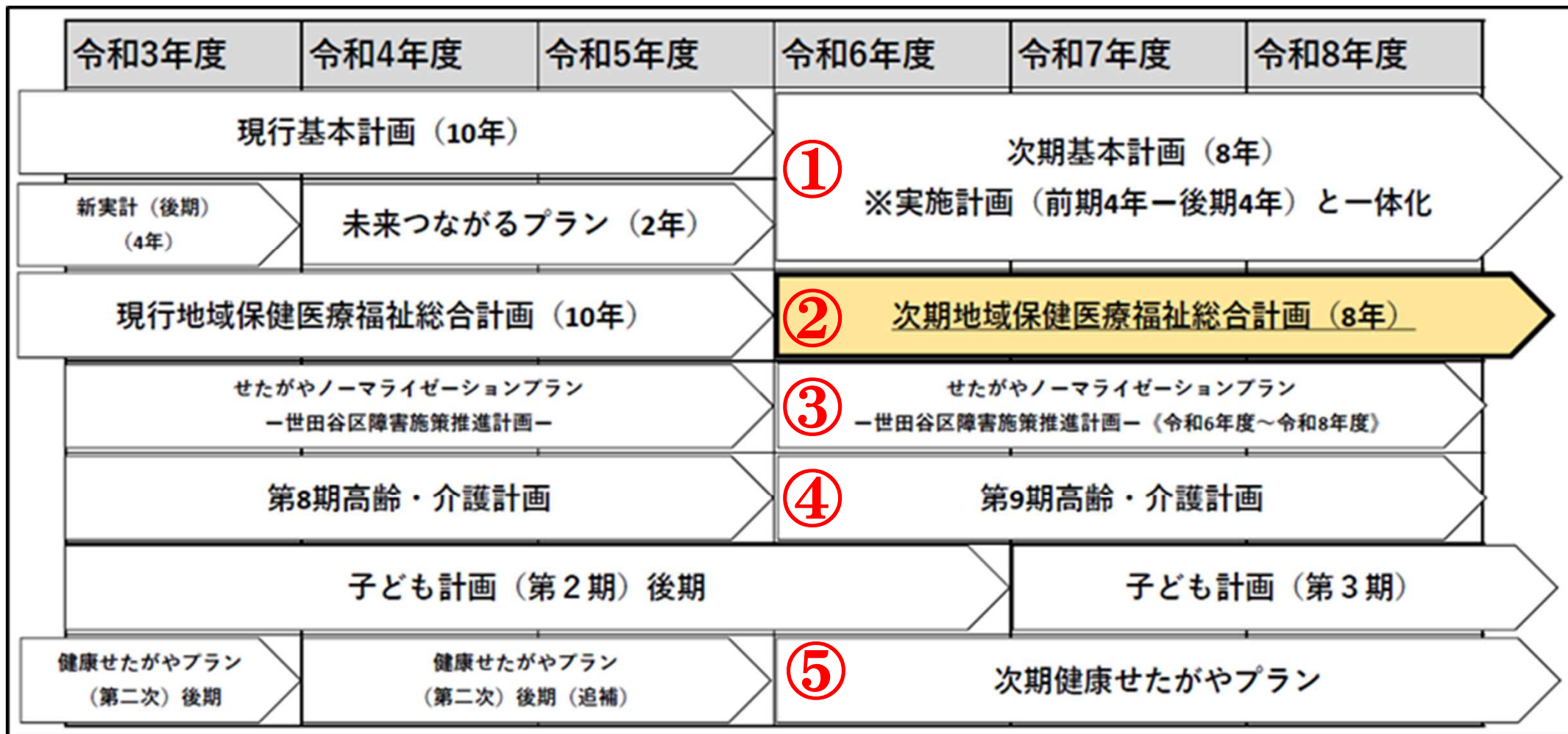


4 世田谷区の認定者数の現状と将来推計（各年10月1日） 4

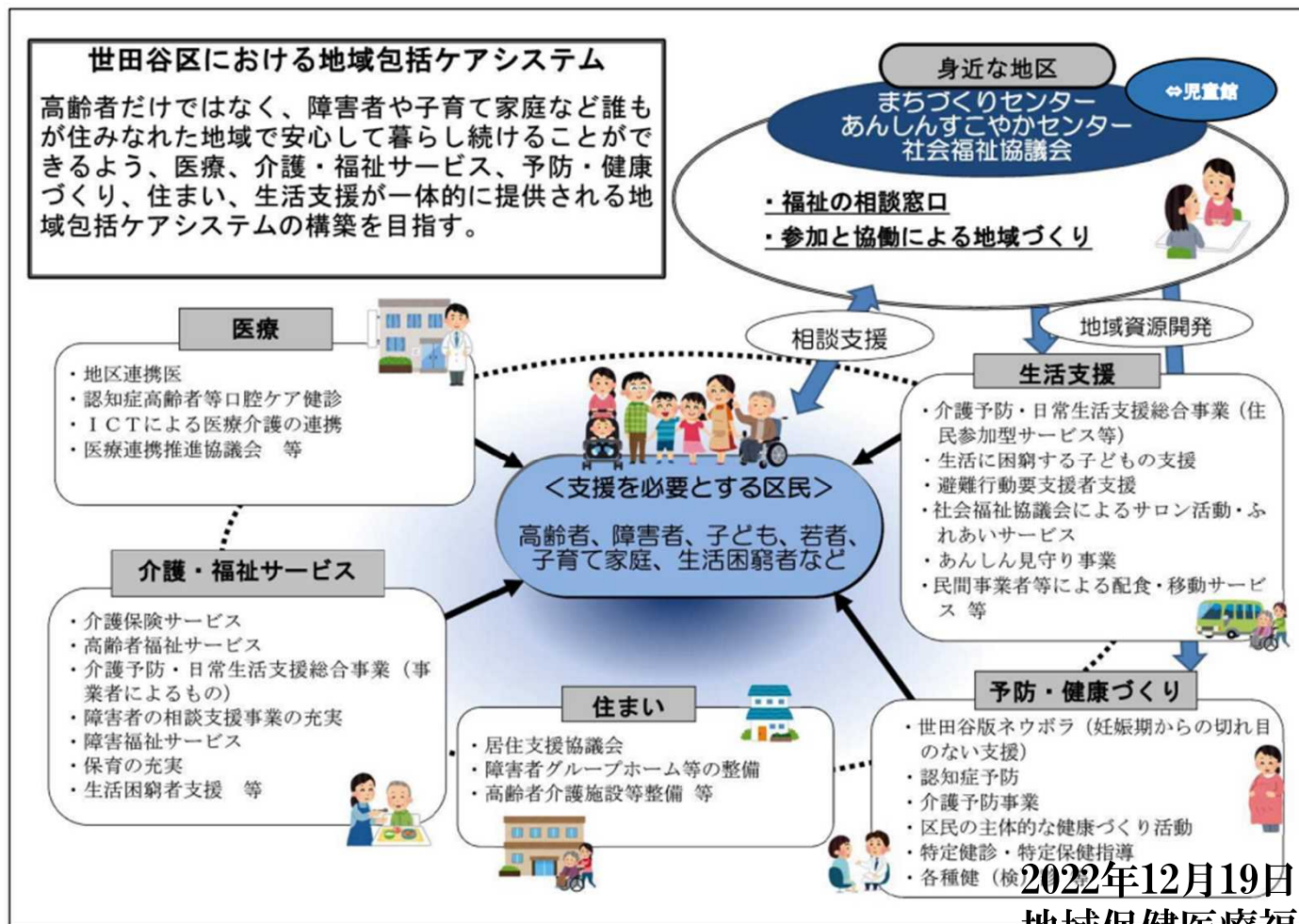
※かっこ内は年齢階層ごとの認定率（単位：千人）



Ⅲ 福祉の課題



既存の地域包括ケアシステムの強化



包括的支援体制の整備

地域生活課題

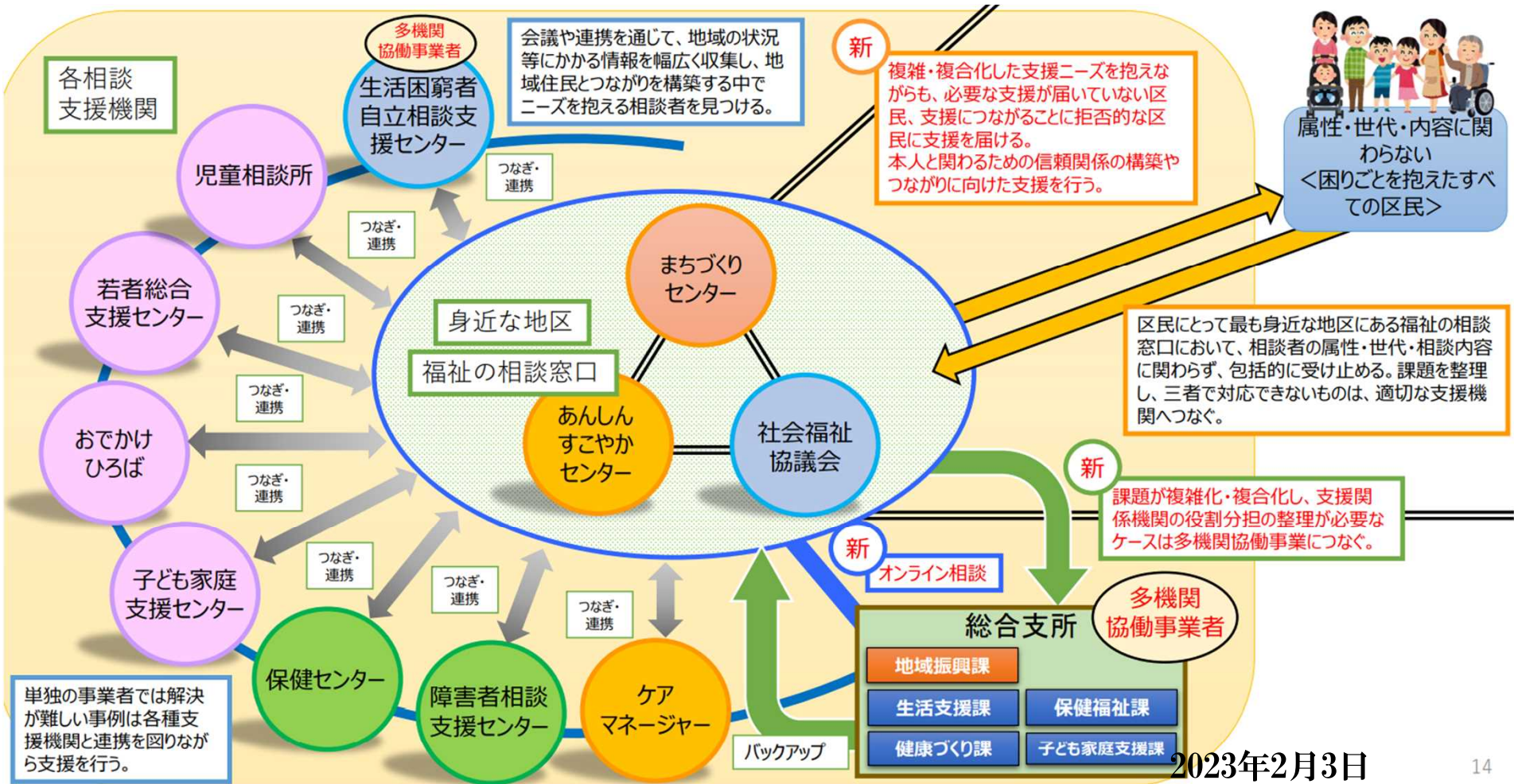
- ① 福祉サービスを必要とする地域住民及びその世帯が抱える福祉、介護、介護予防、保健医療、住まい、就労及び教育に関する課題。
- ② 地域社会からの孤立に関する課題。
- ③ あらゆる分野に参加する機会の確保の課題。

地域生活課題に対する支援が包括的に提供される体制。

→包括的な支援体制

そのためには、地域住民等や支援関係機関が地域福祉の推進のために相互の協力が円滑に行われる必要がある。

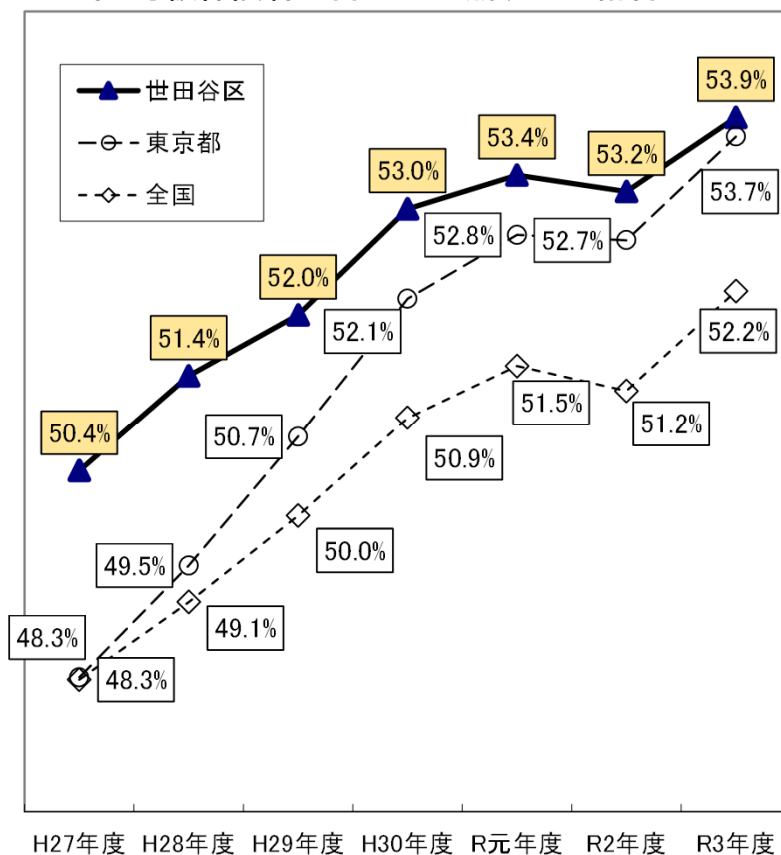
包括的な相談支援



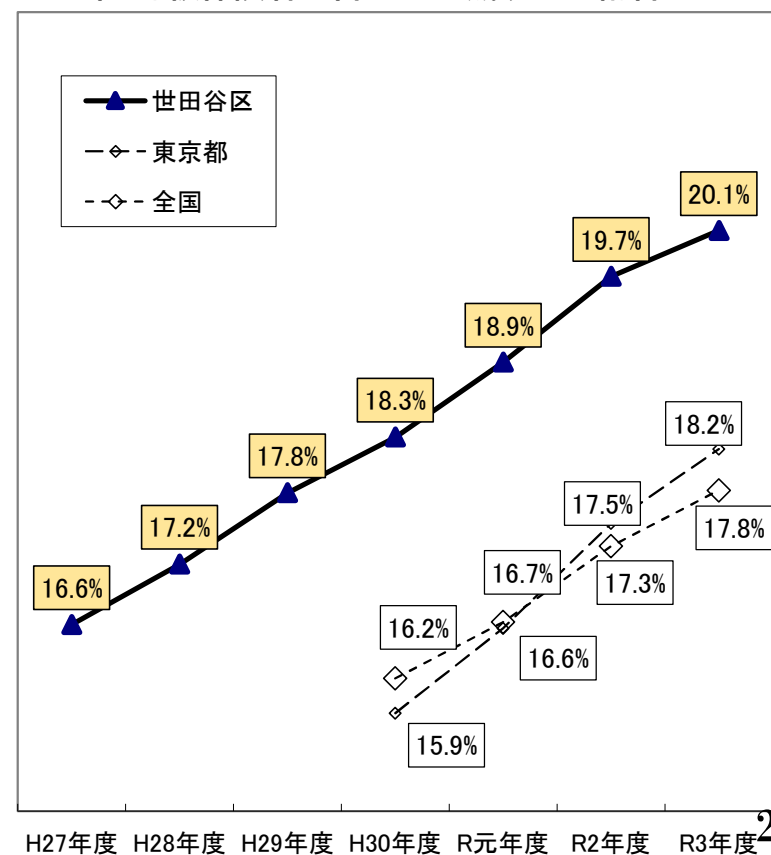
第1号被保険者に占める75歳以上・85歳以上の割合

世田谷区の第1号被保険者に占める75歳以上の割合、85歳以上の割合は、国、東京都を上回っている。

第1号被保険者に占める75歳以上の割合

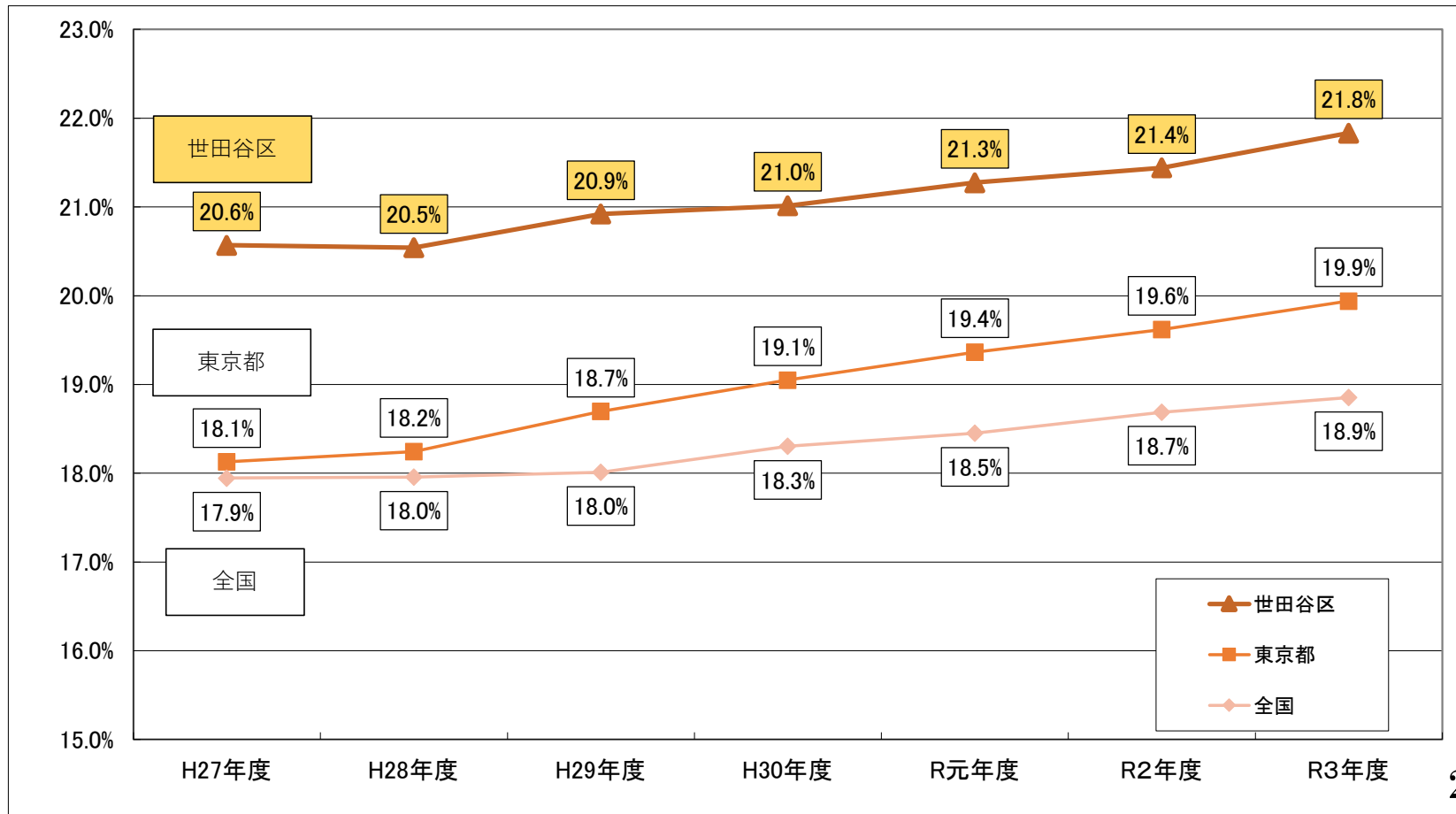


第1号被保険者に占める85歳以上の割合



第1号被保険者認定率の推移

世田谷区の第1号被保険者の認定率は国や東京都を上回っている。



年齢階層別の認定率の推移

4

参考資料P 4

年齢階層が上がると認定率が上昇するが、年齢階層別の認定率は低下傾向にある。

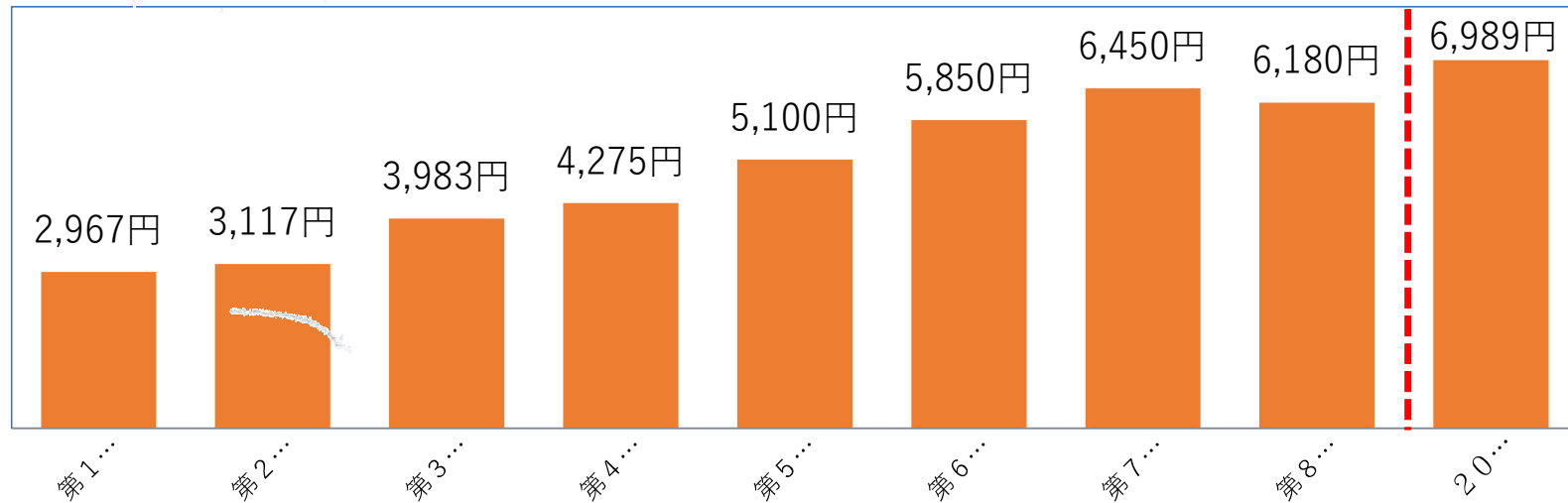
	6期			7期			8期
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
65～74歳	4.3%	4.3%	4.4%	4.3%	4.4%	4.5%	4.6%
75～79歳	<u>14.4%</u>	13.5%	13.4%	13.1%	13.3%	13.2%	<u>13.2%</u>
80～84歳	<u>31.5%</u>	30.7%	30.3%	29.9%	29.3%	28.4%	<u>28.4%</u>
85歳以上	65.4%	64.8%	65.0%	64.8%	64.7%	64.2%	64.2%
第1号 被保険者	20.6%	20.5%	20.9%	21.0%	21.3%	21.4%	21.8%

2023年2月8日
高齢・介護部会

第1号被保険者 保険料(基準月額)の推移

第8期の介護保険料(基準月額)は、制度開始時(平成12年度)の約2.1倍に増えている。

第8期の介護保険料は基金の活用により第7期の介護保険料より低くなっているが、第9期(2025年度)は増加することが見込まれている。



2,911円	3,293円	4,090円	4,160円	4,972円	5,514円	5,869円	6,014円
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

基準月額の全国加重平均(社会保障審議会介護保険部会資料より)

※2025年度推計の介護保険料は、第8期の介護保険料の推計時に、国の推計ソフトに基づいて推計した結果。第8期の推計に準じており、基金の活用は考慮していない。

福祉人材に関する 世田谷区福祉事業所調査報告

世田谷区福祉人材育成・研修センター

外国人材 在籍している38件

① 全事業 (人)

	ベトナム	インドネシア	中国	ミャンマー	フィリピン	台湾	国籍 取得者	その他	合計
EPA	7	10							17
技能実習生	5	14	3	6	4				32
在留資格介護	19	28	3	1	5	1			57
特定技能	5	16	3	9	12			4	49
留学生		6	3		2			1	12
国籍取得者							19		19
合計	36	74	12	16	23	1	19		186

② 特養のみ (人)

	ベトナム	インドネシア	中国	ミャンマー	フィリピン	台湾	国籍 取得者	その他	合計
EPA	7	10							17
技能実習生	2	8	3						13
在留資格介護	18	27	2	1	5	1			54
特定技能	4	11	2	9	11			4	41
留学生		5			2			1	8
国籍取得者							13		13
合計	31	61	7	10	18	1	19		146

区内特別養護老人ホームの外国人材

年	施設数	人数
2020	18	92
2021	19	110
2022		146

年	EPA	技能実習	在留資格 介護	特定技能	留学生	国籍取得	
2020	39	16	9	13	5	10	92
2021	27	12	34	19	9	11	110
2022	17	13	54	41	8	13	146

IV 審議会での議論

第1回 高齢・介護部会における主な意見要旨

カテゴリ	意見の要旨
9期計画への視点について	<ul style="list-style-type: none">○8期計画策定時には、予想もしていなかったコロナ禍で様々な取り組みが進んでいた。コロナの影響を考える必要がある。今後は世の中全体でポストコロナを考えなければならない。遠隔での会議も浸透してきた。9期計画ではポストコロナを見据えて議論していく必要があるのではないか。○新型コロナウイルス感染症が妨げとなってうまくいかなかったこと、逆にうまく進んだことを検証すべき。○国は地域共生社会の構築の中で、全世代型の地域づくりが重要であることを示している。この部会では、8050、子ども、障害のある方も含めた多様なニーズとネットワークを視野に入れて議論し、9期計画を策定したいと考える。○8期計画ではじめて3つの目標をたて、それぞれ重点を定め、評価指標をつくった。評価指標について、健康寿命は数字が入っているが、その他はアンケート調査結果といった主観的な指標に留まっている。9期の計画目標、指標について、部会の2回目以降もこれらのことを念頭に置いて、議論したらどうかと考える。

2023年2月10日
世田谷区地域保健
福祉審議会

地域包括ケアシステムについて

- 「あんすこ」との面談の中で各地域によって人口動態、特色が異なっていることに気づいた。地域差がでないような地域包括ケアシステムを考えていただきたい。
- 三者連携の他、町会自治会、民生委員の方と情報共有できるようなシステムや方策の検討を進めていきたい。
- 児童館との四者連携で子どもに関する情報が増え、意義があると思った。
- 町会自治会が地域包括ケアシステムの中に、いかに入り込んでいけるかを議論し、形にしたいと考える。
- 薬局が地域で担う役割を果たさなくてはならない。2025年以降も居宅のニーズが深まると思うので、対応できるようにしたい。
- 地域包括ケアシステムの中で独居高齢者へのアウトリーチを考えていただきたい。
- 介護を受けている方々に地域で子どもたちのために働かないかと声掛けをしている。特に男性でもやる気のある方がいると聞いた。そういったきっかけづくりの必要性であったり、視点を計画に盛り込んでいただきたい。
- 訪問すると幼児や障害のある方で支援につながっていない方がおり、どうしたらつながるか、あんしんすこやかセンターと相談しながら支えなくてはならない。

2023年2月10日
世田谷区地域保健
福祉審議会

カテゴリ	意見の要旨
介護予防について	<ul style="list-style-type: none"> ○健康寿命を延ばすために、フレイル健診に取り組むべきだ。 ○ただ健康で安心して暮らすだけでなく、生きがいを持って、働くかをテーマとすべきと考える。 ○活動の中で、コロナの影響で外に出ない方の認知度の低下を実感した。外出に関連する数字が外出を控えたことで7、8期と異なってくるのではと考える。 ○コロナ禍で会話をする機会が減り、買い物等の外出の機会が減り、認知度が落ちたり、会話が難しくなったりといった影響を感じている。高齢者が増える中で独居の方をどう支えるかを注視しなくてはならない。 ○2025年、団塊の世代の方が後期高齢者となる中で未病の方（健康でありつつ少し病気を抱えている方）が増えている。オーラルフレイルが未病の方に起きる場合がある。未病の段階では見つけにくい。フレイルと一体となって見つけていくことが大切である。 ○2025年に国民皆歯科健診が開始される話がある。高齢者の健康寿命を延ばすための健診事業を世田谷区が主導してシステムをつくらせていただきたい。システムとして構築されれば、連携も生まれる。いろんな業態同士が入っていけるようなシステムを組んでいただきたい。

2023年2月10日
世田谷区地域保健
福祉審議会

介護事業
について

- 医療と介護と連携したケアプランの作成などケアマネの質の向上に取り組んでいきたい。
- 特養の整備が進んでも、人材不足で空きベッドがあるケースもある。介護人材対策推進協議会を立ち上げて、介護人材の確保、育成、定着、様々な議論をしていることにありがたく感じている。
- 看護師、訪問看護の人材も十分ではない。世田谷区からも支援を受けているが、確保するのが難しい状況である。今後も訪問看護の需要が伸びていくと、より人材が必要になると考える。
- 離職者数に注視する必要があると考える。離職率が高い事業者への支援が重要である。
- 区内に28か所の特養があるが、その半数が20年経過しており、どのように存続させるか考えなくてはならない。今後、既存の施設を守る方策について9期計画の中で盛り込んでほしい。

2023年2月10日
世田谷区地域保健
福祉審議会

カテゴリ	意見の要旨
DXの推進について	<p>○コロナワクチンのネット予約で高齢者が大変混乱した。団塊の世代前後の方はスマホ等の利用は難しいと感じる。DXが浸透しないと行政サービスが行き届かないという課題がある。</p> <p>○業務の効率化のためケアプランデータの連携システムのICT化が進んでいる一方で、高齢のケアマネなど、ICT化についていけるかが課題である。</p> <p>○池尻地区がモデル地区としてオンライン相談が始まった。まだ数件しか受けていないが、利用している障害を持った方が一生懸命画面に向かって話している姿から人を介して何かを伝えるのではなく、画面を通して自分が話したいこと、相談したいことを担当の方と言えることは効果的だと感じた。</p>

2023年2月10日
世田谷区地域保健
福祉審議会

介護保険制度
の見直しにつ
いて

- 国が検討している介護保険制度改正について、利用者や現場への影響が大きい改正が議論されていることの認識の共有が必要である。また、現場の状況を国に伝えることも必要ではないか。
- 国は総合事業を拡大しようと考えているようであるが、2015年に制度が導入された後の影響を検証すべき。すべてを住民サービスに肩代わりを期待するのは非現実的だと考えるが、住民主体B型などがどういった状況か、支援策が必要か、地域偏在はどうかとなっているのかといった視点も含めて検証してはどうか。
- 国は複合型サービス類型の新設について提言しているが、新しいサービスをつくるのではなく、区内に多くある事業所同士を連携させることが重要ではないか。

2023年2月10日
世田谷区地域保健
福祉審議会

ご清聴、ありがとうございました。

